

粕谷 & 上祖師谷

徳富蘆花 没後90年(H29)/徳富蘆花 生誕150年(H30)

今と昔

徳富蘆花が暮らしていた頃

徳富蘆花は、明治期のベストセラー作家です。晩年、農業をしながら作家活動をするため、現在の蘆花恒春園がある場所に愛子夫人と移り住みました。その暮らしぶりや昔の上祖師谷地区の風景は、随筆集「みづのたはこと」の中に垣間見ることができます。

年表

- 1868年(明治元年) 現在の熊本県で誕生
- 1900年(明治33年) 長編小説「不如帰(ホトギス)」刊行 ベストセラーとなる
- 1904年(明治34年) - 1905年(明治35年) 日露戦争
- 1906年(明治39年) トルストイ(ロシアの文豪)訪問の旅
- 1907年(明治40年)トルストイの勧めで「晴耕雨読(せいこううどく)」の生活をはじめため現在の蘆花恒春園の地へ転居
- 1913年(大正2年) 随筆集「みづのたはこと」刊行
- 1927年(昭和2年) 徳富蘆花 没
- 1938年(昭和13年) 武蔵野の面影を残す「蘆花恒春園」として開園
- 1958年(昭和33年) 芦花中学校開校
- 1959年(昭和34年) 芦花小学校開校
- 1977年(昭和52年) 上祖師谷中学校開校
- 2017年(平成29年) 徳富蘆花 没後90年
- 2018年(平成30年) 徳富蘆花 生誕150年

上祖師谷まちづくりセンター
TEL 03-3305-8611 FAX 03-5384-7196

発行:令和2年3月

徳富蘆花

「みづのたはこと 村の一年」より

出典「みづのたはこと」(公益財団法人 東京都公園協会)

一月 炉側(ろばた)でコトコト 藁(わら)を掃(う)つては、草履草鞋作り。(中略)

二月 乾いた畑の土は直ぐ塵(ちり)に化ける。

三月 甘藷(さつまいも)や南瓜(とうなす) 胡瓜(きゅうり)の温床(とこ)の仕度もせねばならぬ。馬鈴薯(じゃがいも)も植えねばならぬ。

四月 色々の虫が生れる。田圃(たんぼ)に蛙が泥声(だみごえ)をあげる。

五月 田は紫雲英(れんげそう)の花ざかり。

六月 最早梅雨(つゆ)に入つて、じめじめした日がつづく。蓑笠(みのかさ)で田も植えねばならぬ。

七月 くるり棒の調子を合わして、ドウ、ドウ、バツタ、バツタ、時々群(むれ)の一人が「ウ」と勇(いさ)みを入れて、大地も挫(ひじ)げと打下ろす。

八月 暫く緑色であつた田は、白っぽい早稲の穂の色になり、畑では稗(ひえ)が黒く、黍(きび)が黄に、粟(あわ)が褐色(かちいろ)に熟(こ)れて来る。

九月 林の中、道草の中、家の中まで入り込んで、虫と云う虫が鳴き立てる。早稲が黄ろくなりそめる。

十月 十月は雨の月だ。雨が降(ふ)いたあとでは、雑木林に茸(きのこ)が立つ。

十一月 朝日夕日が美しい。月や星が牙(さ)さえる。田は黄色から白茶(しらちや)になつて行く。

十二月 一束ずつ奇麗に結わえた新藁(しんわら)は、風よけがわりにずらりと家の周囲(まわり)にかけられる。ざら〜と稲を扱(こ)く音。

私(わたし)がいた頃、まわりには一面、田んぼが広がっていたんだ。私の家は茅葺(かやぶき)の家で、現在「蘆花恒春園」で見ることができるよ。私(わたし)が生きた時代を感じられる貴重な建物なので、ぜひ一度見て欲しいな。



蘆花恒春園内にある「徳富蘆花旧宅」(蘆花恒春園所蔵)

古地図 明治14年